

## クイックスタートガイド (behringer.com にてマニュアルをチェック)



# XENYX 1202FX/1002FX

Premium 12/10-Input 2-Bus Mixer with XENYX Mic Preamps,  
British EQs and Multi-FX Processor

JP

JP 安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。
9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついていて、これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのもの

のです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したものの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

**法的放棄**

技術的な仕様および製品の的外観は予告なく変更される場合があります。またその内容の正確性について、いかなる保証をするものではありません。BEHRINGER は MUSIC GROUP (MUSIC-GROUP.COM) のひとつのブランドです。すべての商標はそれぞれの所有者の財産です。MUSIC GROUP は、ここに含まれたすべて、もしくは一部の記述、画像および声明を基にお客様が起こした行動によって生じたいかなる損害・不利益等に関しても一切の責任を負いません。色およびスペックが製品と微妙に異なる場合があります。MUSIC GROUP 製品の販売は、当社

の正規代理店のみが行っています。ディスプレイとディーラーは MUSIC GROUP の代理人ではなく、あらゆる表現、暗示された約束、説明等によって MUSIC GROUP を拘束する権利はまったくありません。この説明書は、著作権保護されています。本取扱説明書に記載された情報内容は、MUSIC GROUP IP LTD. からの書面による事前の許諾がない限り、いかなる利用者もこれを複製、使用、変更、送信、頒布、入れ替え、工作することは禁じられています。

**製権所有**

© 2013 MUSIC Group IP Ltd.

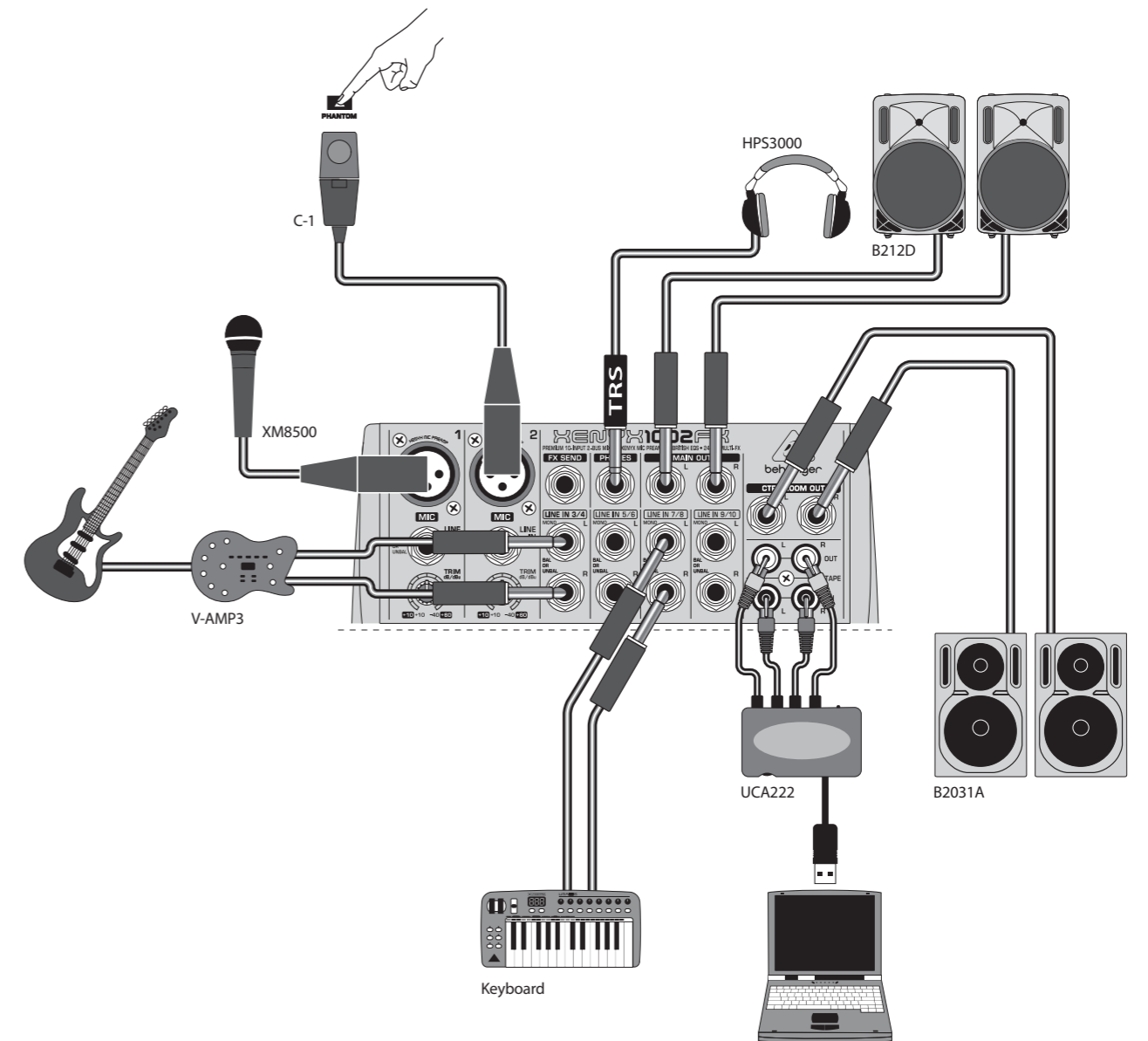
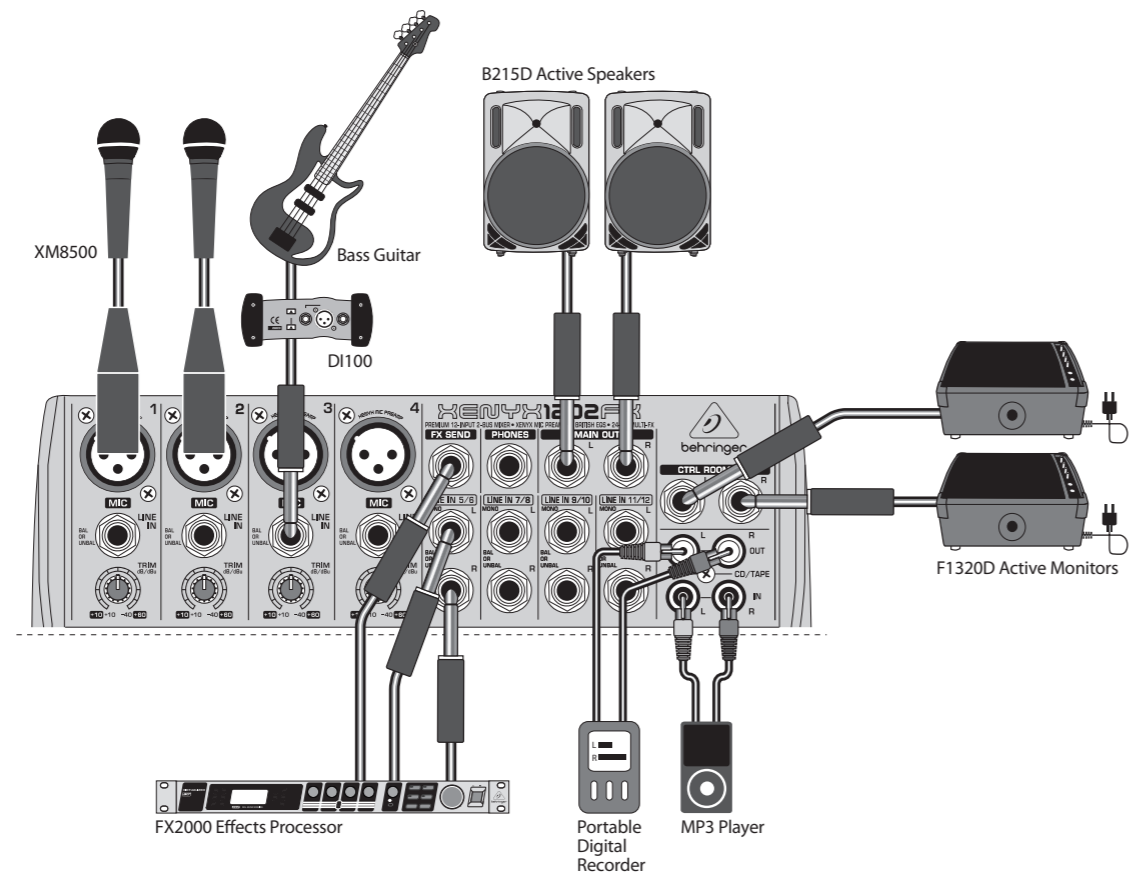
Trident Chambers, Wickhams Cay, P.O. Box 146, Road Town, Tortola, British Virgin Islands

**限定保証**

適用される保証条件と MUSIC Group の限定保証に関する概要については、オンライン上 [www.music-group.com/warranty](http://www.music-group.com/warranty) にて詳細をご確認ください。

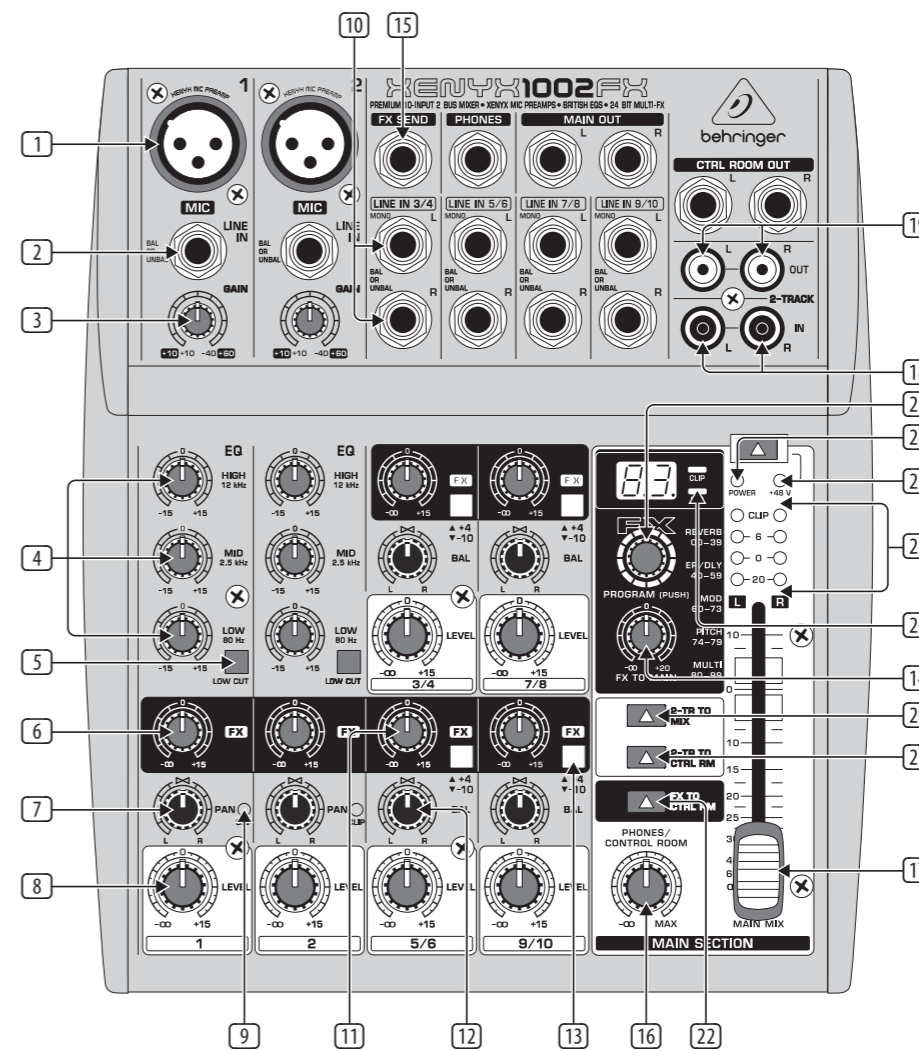
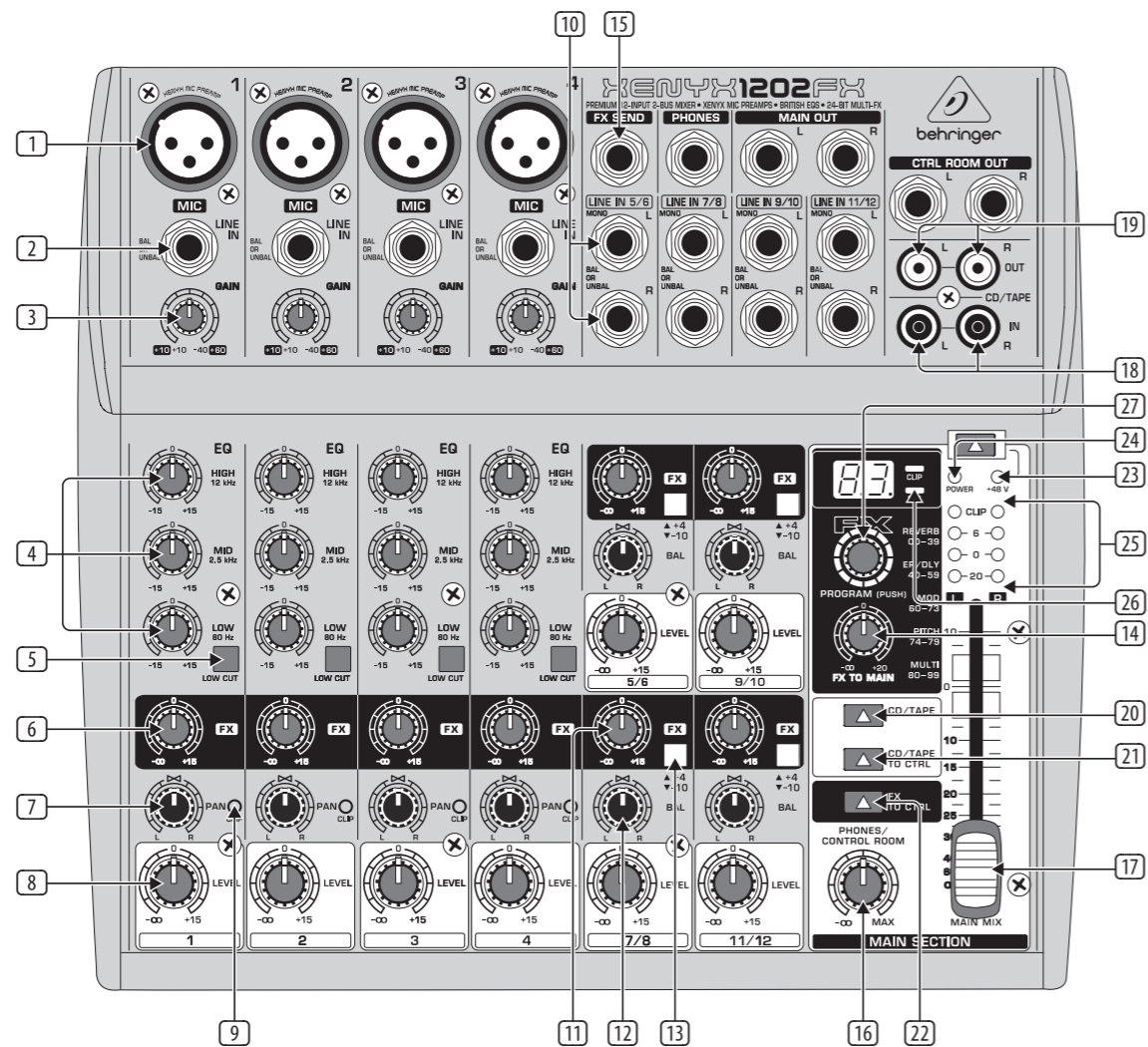
# XENYX 1202FX/1002FX フックアップ

## ステップ 1: フックアップ



# XENYX 1202FX/1002FX コントロール

## ステップ 2: コントロール



# XENYX 1202FX/1002FX コントロール

## ステップ 2: コントロール

この章ではこのミキサーの多彩な操作部について説明し、各コントローラー、スイッチおよび接続端子についての詳細説明を得られます。

- ① **MIC** – それぞれのモノ入力チャンネルは XLR コネクタを使用してバランス型マイクロフォンを接続できます。そしてまた、スイッチの切り替えによりコンデンサーマイク用 +48V ファントム電源も供給できます。XENYX のプリアンプは、外部の高価なプリアンプでしか実現できない類稀な低歪、低ゲインノイズを提供できます。
- ② **LINE IN** – モノラル入力にはさらに 6.3mm フォンジャックによるバランス型ライン入力端子が装備されています。これらの入力端子にはアンバランス型プラグ (モノラルジャック) を接続することも可能です。マイク入力およびライン入力の両チャンネルの同時使用は絶対にお避けください。
- ③ **GAIN** – GAIN ポットは入力信号増幅の設定に使用します。信号源をいずれかの入力端子に接続したり、そこから切り離したりする際には、必ずこのコントローラーを左端まで回転させてください。
- ④ **イコライザー** – 各モノラル入力チャンネルには、3 バンドサウンドコントローラーが装備されています。各バンドごとに最高 15 dB の高低調整が可能です。各バンドを真中に設定するとイコライザーはニュートラルとなります。
- ⑤ **LO CUT** – さらにモノラルチャンネルには傾斜の強い LO CUT フィルターが装備されており、好ましくない低域周波数信号を削除することができます。
- ⑥ **FX** – FX センドは、信号を単数および複数のチャンネルから信号を取り出し、バスに総括することができます。バスはミキサーの FX センド出力にあり、ここから外部エフェクト機器に信号を送り込むことが出来ます。エフェクト機器からのリターンは、ステレオチャンネルを経由して行うことが可能です。各 FX センドはモノで、+15 dB までのゲインとなっています。1002FX/1202FX においては、FX センドは直接内蔵エフェクトプロセッサへとルートされます。エフェクトプロセッサが入力信号を受信しているのを確認する目的で、このコントローラーを左端 (-∞) まで廻すのはおやめください。
- ⑦ **PAN** – PAN コントローラーにより、ステレオ領域内におけるチャンネル信号の位置を設定します。コンスタント・パワー特性を有するこの機構では、ステレオパノラマ内の信号位置に関係なくレベル量を一定に保つことが可能です。
- ⑧ **LEVEL** – LEVEL コントローラーにより、メインミックス内のチャンネル信号のレベルを設定します。
- ⑨ **PEAK** – 入力信号が高くなりすぎると、モノラルチャンネルの PEAK-LED 表示が点灯します。この場合には、GAIN コントローラーを使用し、LED ランプが消えるまで前置増幅を下げてください。
- ⑩ **LINE IN** – 各ステレオチャンネルには、左右チャンネルの各フォンジャックにバランス型ラインレベル入力が 2 つずつ装備されています。チャンネルをモノラル使用する際には、「L」ジャックのみを使います。ステレオチャンネルは典型的なラインレベル信号用に構成されています。両方のジャックにはアンバランス型プラグを接続することも可能です。
- ⑪ **FX** – ステレオチャンネルの FX センド経路はモノラルチャンネルと同様の機能を有します。両方の FX センド経路はモノラル方式となっているため、信号が一つのモノラル出力としてミックスされてから FX バス (一本の回路) へ送られます。
- ⑫ **BAL** – チャンネルのステレオ出力をおこなう際には、左右の入力信号が左または右のメインミックスバスへ出力される前の、相対的な左右入力信号の割合を BAL (バランス) コントローラーで調節します。左側のライン入力によりチャンネルをモノラルとして使用する場合、このコントローラーはモノラルチャンネルの PAN コントローラーと同様の機能を有します。
- ⑬ **+4/-10** – XENYX 1002FX および 1202FX のステレオ入力には、入力レベル調整用スイッチが装備されており、+4 dBu ~ -10 dBV 間の入力感度の切替が可能です。-10 dBV (ホームレコーディングレベル) に設定した場合、+4 dBu (スタジオレベル) の場合に比べて入力感度が高くなります。

- ⑭ **FX TO MAIN** – FX TO MAIN コントローラーは、エフェクト信号をメインミックスに送り込みます。このコントローラーを左端まで廻しきると、ミキサーのサム信号にエフェクト信号は一切加わりません。
- ⑮ **FX SEND** – FX SEND コネクタは、FX コントローラーを使用して各チャンネルから取り出した信号を出力する際に使用します。エフェクトバスのマスター信号を処理するためには、このコネクタを外部エフェクト機器の入力端子に接続してください。処理された信号は、エフェクト機器の出力部からステレオ入力へとルートされます。
- ⑯ **PHONES/CONTROL ROOM** – PHONES 接続端子 (上記接続フィールド参照) はステレオフォンジャックとして装備されていますので、ここにヘッドフォンを接続してください。CONTROL ROOM OUT ジャック (アンバランス型フォンジャック) を使用し、信号を総体的 (エフェクトミックスおよびメインミックス) もしくは個別にコントロールすることが可能です。PHONES/CONTROL ROOM コントローラーにより、両方の出力レベルを設定することができます。
- ⑰ **MAIN MIX** – MAIN OUT ジャックはモノラルフォンジャックとしてアンバランス型に装備されています。ここでのメインミックス総体信号のレベルはおよそ 0 dBu となっています。MAIN MIX フェーダーにより出力音量を設定することが可能です。
- ⑱ **TAPE INPUT** – TAPE INPUT ジャックには、CD プレーヤーやテープデッキなどの外部信号源を接続します。もう 1 機の XENYX や当社の ULTRALINK PRO MX882 などからの出力信号をこれらのジャックに接続し、ステレオライン入力として使用することも可能です。
- ⑲ **CD/TAPE OUTPUT** – これらの端子はピンプラグコネクタとなっており、MAIN OUT と並列に結線されています。サウンドカードやレコーダーはここに接続してください。出力信号レベルは、非常に正確な MAIN MIX フェーダーで行います。
- ⑳ **TAPE TO MIX** – TAPE TO MIX スイッチを押すと、メインミックス内の 2 トラック入力が起動し、追加入力 (バンド挿入、MIDI 楽器およびさらに加工する必要のないその他の信号源用) として使用することが可能となります。
- ㉑ **TAPE TO CTRL ROOM** – モニター出力上 (CTRL ROOM OUT) で 2 トラック入力を聞きたい場合には、TAPE CTRL ROOM スイッチを押すと、モニタースピーカーやヘッドフォンによるバックバンドのチェックが簡単になります。
- ㉒ **FX TO CTRL ROOM** – ヘッドフォンおよびモニタースピーカーを使用し、FX センド信号のみをモニタリングする場合には FX TO CTRL R スイッチを押してください。これによりメインミックス信号の音量が切れ、FX SEND 出力信号のみがモニタリングできるようになります。
- ㉓ **ファントム電源** – PHANTOM スイッチにより、モノラルチャンネルの XLR ジャックへのファントム電源供給機能を起動させます。この機能はコンデンサーマイクを使用する際に必要となります。この機能が起動されると、赤色の +48V LED ランプが点灯します。通常はダイナミックマイク (バランス型) のご使用も可能です。不明点に関してはマイクの各製造元にお問い合わせください。
- ㉔ **POWER** – 青色の POWER LED 表示は機器の電源投入を示します。
- ㉕ **レベル表示** – 高精度 4 セグメント・レベル表示により、表示信号の強弱が常時正確にご覧いただけます。
- ㉖ **SIGNAL と CLIP LED** – エフェクトモジュールの SIGNAL LED には、十分な高さのレベルを持つ信号の存在が表示されます。この LED は常に点灯していません。クリップ LED はまれに点灯するようにしてください。クリップ LED が常に点灯していると、エフェクトプロセッサをオーバードライブしていることとなり、不快な歪みの原因となってしまいます。歪みが発生した場合は、FX コントローラーをいくらか下げてください。
- ㉗ **PROGRAM** – PROGRAM コントローラーには二つの機能があります: これを廻すことで、エフェクトの番号を呼び出します。呼び出したプリセットの番号がディスプレイに点滅によって表示されます。この選択を決定する場合は、このコントローラーを押してください。点滅が消えます。

# XENYX 1202FX/1002FX はじめに

## ステップ 3: はじめに

レベル調整: レベルを入れる際には、入力チャンネルの LEVEL コントローラーを中位置 (0 dB) に設定し、GAIN コントローラーで入力増幅を 0 dB に上げてください。

デジタルレコーダーを使用してレコーディングをおこなう際には、レコーダーのピークメーターが 0 dB を超過しないようにしてください。アナログ方式の場合とは異なり、デジタル方式でレコーディングおこなった場合、微小かつ突発的な過入力も耳障りなデジタル歪み発生の原因となります。XENYX に装備されているピークメーターは、ほぼ周波数依存性なくレベルを表示します。信号全種に対してレコーディングレベルを 0 dB とすることが推奨されます。

# JP 技術仕様

モノ入力	
マイク入力	
タイプ	XLR コネクター、電子バランス型、個別入力スイッチ
<b>Mic E.I.N. (20 Hz - 20 kHz)</b>	
@ 0 W 音源抵抗	-132.7 dB / 137 dB A-weighted
@ 50 W 音源抵抗	-130 dB / 133.9 dB A-weighted
@ 150 W 音源抵抗	-127.1 dB / 130.9 dB A-weighted
周波数帯域	<10 Hz - 200 kHz (-1 dB)
増幅域	+10 to +60 dB
最大入力レベル	+12 dBu @ +10 dB gain
インピーダンス	約 2.6 kW バランス型
S/N 比 (0 dBu In @ +22 dB Gain)	-107 dB / -111 dB A-weighted (0 dBu In @ +22 dB gain)
歪み (THD + N)	0.005% / 0.003% A-weighted
ライン入力	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、電子バランス型
インピーダンス約	20 kW バランス型 10 kW アンバランス型
増幅域	-10 to +40 dB
最大入力レベル	+20 dBu @ 0 dB Gain
<b>フェードアウトアッテネーション (クロストークアッテネーション)</b>	
メインフェーダー閉じ	85 dB
チャンネルフェーダー閉じ	88 dB
<b>周波数帯域</b>	
マイク入力からメイン出力へ	
<10 Hz - 80 kHz	+0 dB / -1 dB
<10 Hz - 137 kHz	+0 dB / -3 dB
<b>ステレオ入力</b>	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、電子バランス型
インピーダンス	約 20 kW バランス型 10 kW アンバランス型 (+4 dBu) 約 20 kW バランス型 5 kW アンバランス型 (-10 dBV)
最大入力レベル	+22 dBu
<b>EQ モノチャンネル</b>	
Low	80 Hz / ±15 dB
Mid	2.5 kHz / ±15 dB
High	12 kHz / ±15 dB
<b>オーディオ出力</b>	
エフェクトセンド	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、アンバランス型
インピーダンス	約 120 W
最大出力レベル	+22 dBu
<b>メイン出力</b>	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、アンバランス型
インピーダンス	約 120 W
最大出力レベル	+22 dBu
<b>コントロールルーム出力</b>	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、アンバランス型
インピーダンス	約 120 W
最大出力レベル	+22 dBu
<b>ヘッドフォン出力</b>	
タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック、アンバランス型
最大出力レベル	+19 dBu / 150 Ω (+25 dBm)

メインミックスシステムデータ	
ノイズ	
メインミックス @ -∞, チャンネルフェーダー -∞	-105 dB / -108 dB A-weighted
メインミックス @ 0 dB, チャンネルフェーダー -∞	-94 dB / -97 dB A-weighted
メインミックス @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ 0 dB	-83 dB / -85 dB A-weighted
<b>エフェクトセクション</b>	
コンバーター	24-bit デルタシグマ
サンプリングレート	40 kHz
<b>電源電圧</b>	
米国 / カナダ	120 V~, 60 Hz, MXUL6 adapter
英国 / オーストラリア	240 V~, 50 Hz, MXUK6 adapter
ヨーロッパ	230 V~, 50 Hz, MXEU6 adapter
日本	220 V~, 50 Hz, MXCN6 adapter
中国	100 V~, 60 Hz, MXJP6 adapter
<b>外形寸法 / 重量</b>	
<b>1202FX</b>	
寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	約 37 mm / 47 x 242 x 220 mm
正味重量	約 2.1 kg
<b>1002FX</b>	
寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	約 37 mm / 47 x 189 x 220 mm
正味重量	約 1.6 kg

# その他の重要な情報

## JP その他の重要な情報

- 1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:**  
ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230V と 120V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。
- 2. 故障:** MUSIC Group ディーラーがお客様のお近くにはないときは、behringer.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の MUSIC Group ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ behringer.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、behringer.com で、オンラインの保証請求を要請してください。
- 3. 電源接続:** 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。



We Hear You